

『多田等観と宮沢賢治—チベットに捧げた人生と西域への夢—』

花巻市博物館長
高橋信雄

- 1 はじめに
- 2 等観のチベット入りとその頃の世界情勢
- 3 等観のチベットでの修行と請来資料
- 4 等観帰国後の活躍
- 5 等観と賢治を繋ぐ島地大等
- 6 賢治作品にみる西域



『釈迦牟尼世尊絵伝』本尊図 78.1×54.1 cm 綿布着色 花巻市博物館蔵

・多田等観(1890~1967) 法名 トゥプテン・ギェンツェン

現・秋田市西船寺住職多田義観の三男として生まれ、秋田中学卒業後西本願寺に入山、1913年チベットに入り、ダライ・ラマ13世の庇護の下チベット仏教修行、チベット仏教最高学位ゲシェー(大僧正)に任じられる。デルゲ版大蔵経はじめ多くの仏典、仏画、仏像等を請来し、1923年に帰国。現・東京大学文学部嘱託、現・東北大学講師等を務め、「チベット大蔵経総目録」の刊行等により日本学士院賞受賞、東洋文庫のチベット学センター主任研究員等でチベット学の普及に努める。

・宮沢賢治(1896~1933)

現・花巻市の熱心な浄土真宗の信者であった宮沢政次郎の長男として生まれ、盛岡中学卒業後、島地大等の『漢和対照妙法蓮華経』を読んで感銘を受け法華経信者となる。盛岡高等農林を卒業、国柱会での活動を経て花巻農学校の教諭となる。『心象スケッチ春と修羅』や童話集『注文の多い料理店』を出版。鉱物を中心とした科学や音楽などにも深い関心を持っていた。

・ダライ・ラマ13世(1876~1933) 法名 トゥプテン・ギャツォ

3歳でダライ・ラマに認定され、チベット仏教の最高指導者である法主となる。1904年イギリス軍のラサ進行でモンゴルへ亡命し、中国を経て1909年にラサに帰還。1910年の清軍の侵攻でインドに亡命。1911年の辛亥革命でラサに帰還。チベットの自立を宣言し近代化を図った。

・大谷光瑞(1876~1948) 法名 鏡如上人

浄土真宗本願寺派第22代法主。1899年から二年間ロンドンを中心にヨーロッパに游学。1902年仏教伝播を探る広域調査を計画し、第一次大谷探検隊を組織しインド、中央アジア、中国の雲南・四川、ビルマを対象とした調査を行った。1908年には、中央アジアとモンゴル対象とした第二次大谷探検隊を派遣、1910年からは中央アジアを対象とした第三次大谷探検隊を派遣する。1914年巨額の負債処理と教団の疑獄事件で法主を辞任し隠退した。

・島地大等(1875~1927) 浄土真宗本願寺派盛岡市願教寺第26代住職 仏教学者

現・上越市浄土真宗本願寺派勝念寺住職姫宮大円の次男。西本願寺文学寮、大学林高等部卒。明治時代初期に政教分離を唱えた仏教指導者で浄土真宗本願寺派盛岡市願教寺住職島地黙雷の法嗣となり第一次大谷探検隊の隊員としてインド・ビルマ等の仏教遺跡調査。比叡山や高野山で研究を重ね天台哲学の泰斗といわれる。現・駒澤大学、現・大正大学、東洋大学、現・東京大学等で教鞭をとる。宗派にとらわれない各宗派に通じた仏教学者。宮沢賢治に大きな影響を与えた『漢和対照妙法蓮華経』(鳩摩羅什の漢訳と慈覚大師の和訳に「法華大意」と「法華略科」を加えたもの)を著す。

・青木文教(1885~1956) 法名 トゥプテン・タシー

現・高島市の浄土真宗本願寺派正福寺青木覚生の長男。1909年に現・龍谷大学を中退し、大谷光瑞の命でインド仏跡調査。1911年チベット留学生を伴って帰国し西本願寺に戻る。1912年留学生や多田等観と共にインドに向かう。その後、ネパール経由でチベットに到着。1916年帰国。1920年『秘密之國 西藏遊記』を刊行。1935年現・京都大学でチベット語の調査研究

多田等観関係略年譜

- 1890年 多田等観 現・秋田市浄土真宗本願寺派西船寺 14世多田義観の三男として誕生
- 1896年 宮沢賢治 現・花巻市の宮沢政次郎の長男として誕生
- 1903年 イギリス軍チベットに侵入
- 1904年 ラサ条約 ダライ・ラマ 13世モンゴルに亡命
- 1906年 ダライ・ラマ 13世モンゴルを離れ中国へ
- 1908年 中国五台山で大谷尊由がダライ・ラマ 13世に謁見
ダライ・ラマ 13世ラサに帰還
- 1910年 清国のチベット進攻 ダライ・ラマ 13世インドに亡命
- 1911年 チベット留学生西本願寺へ 等観が留学生の世話役
辛亥革命
- 1912年 等観 留学生の帰国と共に青木文教とインドへ
- 1913年 等観単独でブータン経由でチベットへ ダライ・ラマ 13世ラサに帰還
- 1914年 イギリスとチベット政府でシムラ条約 チベットの独立承認
- 1919年 等観 ノルブリンカ離宮で、ダライ・ラマ 13世から具足戒を受ける
- 1922年 等観 チベット仏教最高学位「ゲシェー(大僧正)」に外国人で初めて任じられる
- 1923年 等観 インド経由で帰国 経典、典籍等 24, 279部他を請来
- 1924年 等観 現・東京大学文学部嘱託 チベット文献整理
- 1925年 等観 現・東北大学講師 チベット仏典目録作成
- 1933年 等観 外務省後援の大連の夏季大学講師として旧満州、蒙古へ出張
宮沢賢治逝去
- 1934年 等観 勲六等瑞宝章、従軍記章、満州国建国功労賞を受ける
現・東北大学法文学部から『西藏大蔵経総目録』刊行
- 1935年 等観 現・東北大学文学部講師
- 1937年 ダライ・ラマ 13世の遺言で等観へ『釈迦牟尼世尊絵伝』が送られてくる
- 1942年 等観 岩波新書『チベット』発刊
- 1943年 等観 現・東京大学文学部講師発令
慶応義塾大学外語研究所、アジア文化研究所の創設に参画
- 1945年 チベット請来資料 花巻町に疎開
- 1946年 等観 東京大学講師
花巻の太田村に疎開していた高村光太郎らと親交
- 1948年 等観 花巻湯口の観音山に経蔵を建てチベット請来資料保存
- 1949年 等観 スタンフォード大学の招きで、チベット文献の一部大学に寄贈
- 1951年 等観 サンフランシスコのアジア文化研究所の教授
- 1953年 等観 東北大学から『チベット撰述仏典目録』を発行
- 1955年 等観 日本学士院賞受賞
- 1956年 等観 (財)東洋文庫チベット学研究センター主任研究員
- 1958年 等観 『西藏仏画釈尊伝』刊行
- 1966年 等観 勲三等旭日中授賞を叙勲
- 1967年 等観逝去

ダライ・ラマ 13 世からの贈り物 『釈迦牟尼世尊絵伝』(釈尊絵伝)

釈迦牟尼世尊の絵伝は、綿布の画布に彩画された絵で、歴代のダライ・ラマが伝えてきたもので、ダライ・ラマ 13 世の信任が篤く「等観であれば、チベット仏教を正しく伝えることが出来る」として、遺言によって等観の下へ送られてきた。

本尊が 1 幅と本尊の番外編である本尊エキストラが 1 幅と釈尊の生涯が描かれた仏伝図 23 幅の計 25 幅で構成されている。仏伝図は、本来左右 12 幅ずつ 24 幅で構成されるが、左 4 図が亡失している。

絵伝は、本尊から見て右 1 図から始まって順に右 12 図まで行き、そこから左 1 図に転じて左 12 図で完結する。釈迦の事績めぐる説話が 1 幅あたり 3 話から 13 話合計で 120 話が描かれている。各話の終わりの部分には、その内容を表す詞書が金泥の細字で書きこまれている。絵伝には敦煌壁画や日本の絵因果経・インドネシアのボロブドゥールなどに部分的なものが見られるが、釈尊の全生涯にわたってこれほど詳細に描かれた事例は、ほとんどないとされている。

宮沢賢治作品と西域

- ・西域異聞三部作童話 「マグノリアの木」、「インドラの網」、「雁の童子」
- ・詩他 「阿耨達池幻想曲」「野の師父」「毘沙門天の宝庫」「葱嶺先生の散歩」等々
- ・作品に登場する西域地名等 天山北路、タクラマカン、葱嶺(パミール)、ガンダーラ、庫庫(クチャ)、于闐(コータン、ホータン)、楼蘭、沙車(ヤルカンド)、ミーラン、ロプノール

- ・参考にしたと想定される書物

『西遊記』(玄奘三蔵をモデルとした西天取経伝説)

オーレル・スタイン『カセイ砂漠』『砂に埋もれたホータンの廃墟』

スヴェン・ヘディン『トランス・ヒマラヤ』

河口慧海『チベット滞在記』

青木文教『秘密之國 西藏遊記』

- ・鳩摩羅什(350~409):カシミール生まれの父鳩摩羅炎と亀茲国王女耆婆を母に亀茲国で誕生。母と共にカシミールに遊学。最初、小乗を学ぶが、須利耶蘇麻に師事して大乘仏教に転向。中国に戻り一時捕虜となるが、後秦の時代に長安で仏典の漢訳に専念する。主な仏典『仏説阿弥陀経』『魔訶般若波羅蜜経』『妙法蓮華経』『維摩経』等

- ・華嚴経:正式には、『大方向仏華嚴経』。インドで伝えられた様々な経典が、4 世紀頃西域(于闐、ホータンか)でまとめられたとされる。菩薩行を説いた「十地品」や善財童子の求道譚を書いた「入法界品」には、サンスクリット語の経典がある。華嚴経の本尊は、毘盧遮那仏で仏陀の智慧の廣大無辺なことを象徴した仏で智光は、全宇宙を照らすとされる。思想的には、お互いに働きかけつつ交渉しあい無限に縁起しあうという「事事無碍」やあらゆるものが無限の関係を持って作用しあう「重重無尽」等の法界縁起に基づいた菩薩行を説いているとされる。



帰国直後の多田等観



八千頌般若波羅蜜多經

14～15 世紀 30.0×70.0 cm 紺紙金泥
花巻市博物館蔵

文殊菩薩座像 →
18～19 世紀 15.2 cm 金銅製
花巻市博物館蔵



多田等観(右)と賢治の両親宮沢政次郎・イシ夫妻



塑像十一面観音入り琥珀製仏龕
3.8×4.7 cm 花巻市博物館蔵

帰国に際しダライ・ラマ 13 世からお守りとして下賜された